

町長室から

昨年は

1年を表す漢字1文字が「北」であったように北朝鮮の核実験とミサイルの度重なる発射で日本上空を通過し、トランプ大統領と北朝鮮のキムジョンウン委員長の間でも一層緊張が高まった年でありましたが、基幹産業においては豊穰の秋を迎えた農業に比して、漁業は総じて振るわず明暗を分けることになりました。

今年も戊午年です。

兜町の株式の相場に「申酉騒ぎ、戌笑つ」という有名な格言があります。大発会では22年ぶりとなる大幅上昇で幸先の良い年明けとなりました。

安倍首相は年頭の所感の中で『今年も明治維新から150年の節目を迎えるが、現在の人口減少社会は当時の日本が迎えた開国という困難と同じであるとしたうえで、アベノミクスで有効求人倍率は全都道府県で1倍を超えて、景気回復の温かい波は地方にも広がりを見せており、一億総活躍社会で150年前の

先人たちと同じように未来を変えられることができる。』と宣言しました。

地方への広がりはどこまで届いたのでしょうか、今年こそ、その実感を享受したいものです。

また、蝦夷地から松浦武四郎氏により北海道と命名されてから150年の節目の年であり、記念式典も数多く開催されるようです。

翻って、浦幌町では開町119年目を迎えることになりました。

第3期町づくり計画の後期計画も3年目を迎えることになり、人口減少社会への挑戦は喫緊の課題であります。今年もギガファームである(株)ノベルズの『(株)うらほろデイリーファーム第一牧場』の新設計画が実現する運びになり、人材雇用による定住人口の増が計られることになりました。

また、北海道が進める新規の林業大学校設立については道内では7つの期成会が誘致を進め

ていますが、十勝町村会でも誘致を進めており、浦幌町も候補地としての有力な資格を有していると考えているところであり、ますし、旧室小や旧店舗を活用したワーキングスペースや、大企業の若手職員が進めているワーキングキャンプによる企業創業への提案は定住移住促進がさらに具体化するなど、新たな町内活性化が進められるものも期待しているところでもあります。

今年に入り、浦幌アンバサダーとして昨年の北村貴さん、増田佳織さんに続いて3人目となる山瀬理恵子さんに委嘱させていただきました。

山瀬さんは、元日本代表であり、現在はアビスパ福岡で活躍しているサッカー選手の山瀬功治氏の奥さんです。昨年浦幌町での「男女共同参画・まちづくり講演会」にも来ていただきました。また、長年京都新聞紙面において「アス飯(アスリートのお飯)」を連載し続け、今はテレビ西日本

でも放映されているなどテレビ出演や全国各地で精力的な講演活動などでも活躍されておられます。

3人のアンバサダーにはこれから浦幌町の応援大使として、幅広く活躍していただくことを期待したいと思います。

交通事故死ゼロへの取り組みは、残念ながら昨年は町内での交通事故死が発生してしまいました。

交通事故撲滅はみんなの願いであります。安全協会の皆さんとともに旗の波作戦などで常に安全運転の喚起を図っているところであり、さらに気持ちも新たに今年も交通違反3悪の追放と交通事故撲滅に向けて、職員一動取り組みますので、町民の皆様にも安全運転の励行をお願い致します。

浦幌町長 水澤一廣